TOHOKU UNIVERSITY
IRIDeS
東北大学災害科学国際研究所

「ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取」で親子向け防災・減災ワークショップを実施しました
(2026/10/18)

テーマ：防災教育, 災害時行動シミュレーション, 防災・減災スタンプラリー
会　場：鳥取県倉吉市エースパック未来中心
ＵＲＬ：https://bosai-kokutai.jp/2026/w-06/

2026 年 10 月 17 日（土）・18 日（日）、鳥取県倉吉市で「ぼうさいこくたい 2026」が開催されました。当研究所からは、減災教育「結」プロジェクトの一環として、地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門が中心となり、「きみはなにいろ？災害時の行動シミュレーションにトライ！」と題した体験型ワークショップを出展しました。

「ぼうさいこくたい」は、行政や企業、研究機関から一般市民まで、世代を超えて誰もが参加できる日本最大級の総合防災イベントです。鳥取県倉吉市を開催地とした今年度も、地域の災害リスクに応じた防災・減災の推進や産学官の協働を伝える企画が数多く出展され、会場には終日多くの来場者が足を運びました。

ワークショップでは、武田真一学術研究員（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）の司会進行のもと、まず保田真理プロジェクト講師（同寄附研究部門）による「ゆい姫・サイゾウのぼうさい授業」が行われ、親しみやすいイラストや解説を通して非常時に命を守るための判断や行動を伝えました。続くミニセミナーでは、協力団体である東京海上日動火災保険株式会社 山陰支店鳥取支社の国枝恵太氏が登壇し、「もし今日、地震がおきたら？みんなで考えるぼうさい授業」と題して、保険による助け合いの仕組みや、鳥取県中部地震をはじめとする過去の地震被害を紹介しました。続いて、保田プロジェクト講師の進行のもと、災害時の場面ごとに自分ならどのように行動するかを選ぶゲーム形式の「防災・減災スタンプラリー」を実施し、参加者が自ら選択した行動から自身の「防災タイプ」を知る体験型の学習を提供しました。締めくくりには「津波はかせ」としてアナワット・サッパシー准教授（同寄附研究部門/津波工学研究分野）が登壇し、ハザードマップの見方を解説するとともに津波に関する参加者の疑問に専門的な立場から答えました。

今年度のワークショップには定員を超える 56 名が参加しました。開催地に関係の深い鳥取県中部地震や、倉吉市周辺の地震・津波に関するハザードマップも学習資料に取り入れ、地域の災害リスクを意識するきっかけとなりました。授業で知識を学び、スタンプラリーで行動を考え、専門家との対話で疑問を解消する一連のプログラムを通じ、産学連携による実践的な防災・減災教育の意義を伝える機会となりました。

東京海上日動による「ぼうさい授業」の様子

スタンプラリー体験後の振り返りの様子

文責：岩瀬恵一（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）